日本共産党 和歌山市会議員
ひめだ高宏ニュース
NO.1096
16.3.29

2月定例市議会報告

今号は、(1)面で日本共産党市議団も賛成した条例の制定や改正について、(2)面で党市議団が紹介議員となった市社保協の請願について報告します。

和歌山市差別解消推進条例の制定

和歌山市障害者差別解消推進条例が制定されました。

この条例は、障害を理由とする差別の解消について、基本理念を定め、市の責務と市民・事業者の役割を明らかにし、差別解消を推進するための基本事項を定めることで、障害者差別解消法の施策と相まって、安心して暮らしやすい和歌山市の実現に寄与することを目的としています。市は、手話通訳、要約筆記、点訳、朗読など意思疎通支援の拡充をするなどとしています。

和歌山市手話言語条例の制定

和歌山市手話言語条例が制定されました。

この条例は、手話が言語であるとの認識に基づき、手話を普及させ、地域で手話が使用されやすい環境を整備するための市の責務と市民・事業者の役割を明らかにし、ろう者とろう者以外の人が共生できる地域社会の実現に資することを目的としています。

コミセン図書室

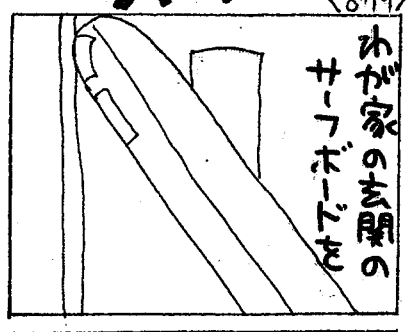
コミュニティセンター条例の改正で、4月からコミセン図書室の閉館時間が17時から20時に変わります。

中学まで通院も無料に 8月～

和歌山市こども医療費の支給に関する条例の改正により、8月1日から中学生までの子ども医療費が通院も対象に広がりました。

署名運動などに取り組んだタクさんのみなさんが本会議の傍聴に来てくれました。

フツーの人々 〈879〉



今週のフツーの人々（その42）

サーファー

私は1986年4月に神戸から和歌山に転勤してきました。初めて片男波の浜辺へ行ったとき、神戸の須磨海岸に比べて海のきれいさに驚きました。そのことを和歌山の人に話すと「南の方がもっときれいや」と口をそろえて言うことにもっと驚きました。それから時々、片男波海水浴場でチューブの浮き輪を借りてプカプカ揺られました。

議員になった頃からテニスをするようになり、夏場に浮き輪を楽しむことも海で泳ぐこともありません。最近、わが家の玄関に大きなサーフボードが置いてあります。息子が友達からもらい時々使っているそうです。小さいときに波を怖がり海に近寄ろうとしなかった息子がどんな顔をしてボードに乗っているのか想像ができません。時は、人を変えるのですね。

ひめだ高宏

市社保協の請願・松坂議員の賛成討論

市社保協の請願について、松坂みちる議員の賛成討論の要旨を報告します。請願の賛成は党議員団しかなく不採択になりました。

後期高齢者医療制度の保険料軽減特例の継続に関する請願に、賛成の立場から討論を行います。

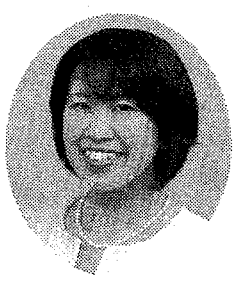
請願は政府が保険料軽減特例を段階的に縮小し20ノク年度に廃止を計画していることから、保険料軽減特例を継続するよう、政府に意見書を提出することを求めるものです。

後期高齢者医療制度は、75歳以上の方にも、また無年金でも、保険料の負担を求めています。その負担軽減制度がなくなれば、保険料が2倍から3倍になる、元々扶養家族だった方は5倍から10倍にもなるとされています。高齢者は年金が目減りしたうえに社会保障の負担も増えています。保険料の実質引き上げで、払えない人が医療から遠ざけられて暮らしそのものが脅かされるのは、火を見るより明らかではないでしょうか。高齢者のいのちと暮らしを守るために、当請願に賛同をお願いいたします。

こんにちは日本共産党です

新しい出会いに元気が…

安倍政治があまりにもひどすぎる、数の力で憲法まで変えようとする、こんな独裁政治を何としても変えたい、こういった声がどんどん広がっています。候補者として活動してから半年が過ぎ、和歌山県すべての自治体をまわりきりました。どの地域でも、日本共産党への関心が高まっていることを実感。北山村では、宣伝カーに寄って来てくれ「共産党頑張ってるなあ、今度は伸びるぞ、頑張れ」と。日高川町では、測量の仕事をしていた男性が「消費税10%中止をキッパリ言ってくれるのは共産党だけや頑張れ」と応援してくれました。今までにないような反応、新しい出会いに元気が出ます。さらに宣伝を強めて日本共産党の風を吹かせていきたいと思います。



坂口ゆき子
(参院選挙区)

潮流

('16.3.29日刊赤旗)

空恐ろしささえ感じさせる訓示でした。「諸君は、私の誇りであり、日本の誇りであります」。防衛大学校の卒業式で演説した安倍首相。みずからを何度も「最高指揮官」と呼びました▼きょう、施行された戦争法。新しい任務につく自衛隊員たちに首相は「あらゆる場面を想定して周到に準備」するようにと。100年以上前に日本が勝利した日露戦争を例に持ち出してくるあたり、想定の中身がしれます▼将来、彼らの中から「総理大臣の片腕となってその重要な意思決定を支える人材が出てくれることを切に願う」とも。自衛隊を「わが軍」といい、軍人を片腕にすることを切望する首相。いくら言葉を飾っても透けてくるのは危うい本質です▼今年、防衛大卒業生の中で自衛官にならない任官拒否者が昨年よりも倍増しました。日本が米国の戦争に参戦し、自衛隊が海外の戦闘地域で活動できる戦争法。「殺し、殺される」ことが自身に迫る現実が影響したのは明らかです▼戦時下の空気を吸ったミステリー作家の西村京太郎さんが今週の本紙日曜版に語っています。「誰から何をいわれようと、日本は戦争はしない。その道を突き進めばいい」。いま、平和を願う声は世代をこえて手を携えます▼戦争の放棄、武力を持たないと誓った戦後日本の国の形を壊そうとする政権。憲法と平和を守り抜くために立ち上がった市民と野党の共闘。夏の参院選に向け壮大なたたかいはさらに激しく。自分たちの手で社会や政治は変えられる、と信じて。

戦争法廃止2000万署名推進を。
赤旗 日刊紙 3497円/月